

トップ
コミットメントサステナビリティ
推進体制JFRの
マテリアリティ低炭素社会への
貢献サプライチェーン
全体のマネジメント地域社会との
共生ダイバーシティ
の推進ワーク・ライフ・
バランスの実現事業会社の
ESGの取り組み社外取締役
メッセージ

ガバナンス

データ集

→ トップメッセージ 外部有識者メッセージ ESG担当役員メッセージ JFRの事業戦略 JFRの理念体系 サステナビリティに関する方針

持続可能な社会の実現に向けた J.フロント リテイリングの取り組み

J.フロント リテイリング株式会社 取締役兼代表執行役社長 山本 良一

J.フロント リテイリングは2007年9月に百貨店の大丸と松坂屋が経営統合して誕生した純粋持株会社です。7年前にはショッピングセンターのパルコがグループに加わり、2019年の春には横浜市の青葉台に幼稚園を開設して幼児保育事業にも乗り出すなど、小売業にとどまらない「マルチサービスリテ일러」を目指しています。

大丸は300年、松坂屋は400年以上の歴史を有しており、お客様や社会の変化に対応しながら、まさにサステナブルな企業活動を実践してきました。当社がこれほど長く事業を継続することができたのは、時代がいくら変化してもブレることのない理念を経営の中核に据えて企業活動を行ってきたからに、ほかならないと考えています。

大丸には「先義後利」＝義を先んじ利を後にするものは栄える 松坂屋には「諸悪莫作・衆善奉行」＝諸悪を犯すなかれ、善行を行え という社是があり精神の拠り所としてきました。この社是に代表される永続的な基本理念はまさにサステナビリティの考え方そのものであり、改めて

社是に立ち返りながら取り組みを進めています。

2018年の大規模で連続的な自然災害に続いて今年も台風大雨が相次いでおり大勢の方が被害に遭われています。次項で山本先生がお話されていますように、こうした一連の災害は地球温暖化が原因であることは明白であり、環境問題をシビアに捉えて向き合っていないと大変なことになると強い危機感を持っています。そして今、環境や社会の課題に対してしっかり取り組んで行くことがこれからの企業に強く求められていると考えています。

当社グループはここ数年、企業に大きな影響を与えるリスクについて分析をしてきました。ここ数年で予測されるリスクは、まさに今までにない逆風といった見方をしています。しかし、私たちはその逆風の真正面から立ち向かいたいと考えています。気候変動をはじめとする環境問題に係るリスクについても同様です。

これからの10年における我々を取り巻く環境は、あら

トップ
コミットメントサステナビリティ
推進体制JFRの
マテリアリティ低炭素社会への
貢献サプライチェーン
全体のマネジメント地域社会との
共生ダイバーシティ
の推進ワーク・ライフ・
バランスの実現事業会社の
ESGの取り組み社外取締役
メッセージ

ガバナンス

データ集

→ **トップメッセージ** 外部有識者メッセージ ESG担当役員メッセージ JFRの事業戦略 JFRの理念体系 サステナビリティに関する方針

ゆる分野で大きく変わると見えています。そこで、過去の延長線上ではない「非連続な成長」に挑み、お客様の暮らし方と楽しみ方の両面からの貢献を通じた企業の持続的な成長を実現することこそが、当社グループの目指すところと考えています。

こうした非連続な成長の実現に向け、当社は早くからコーポレートガバナンスの改革に取り組んできました。そして非連続な成長を遂げるための当社のあるべき姿を追求し、2017年5月の株主総会の承認を経て指名委員会等設置会社に移行しました。また、指名委員会等設置会社に移行した後も、コーポレートガバナンス改革の肝である取締役会の改革を一層進めてきました。私たちは、コーポレートガバナンスを強化することにより、経営監督機能が強化され、また経営の透明性や客観性もさらに向上しているものと考えています。

こうしたコーポレートガバナンスの強化への取り組みをベースに、世の中を善くする、正しい事を行うという志を具現化するというサステナビリティ経営の実現に取り組んでいます。その実現に向けて、まず2018年にサステナビリティ方針を策定しました。サステナビリティ方針においては、先に述べました通り、当社グループが300年、400年という経営活動を持続してきた礎である社是、理念を中核に据えるなかで、まさにその実践こそがグループビジョンの実現、すなわち事業活動を通じた社会課題の解決につながり、ステークホルダーの皆様にとっての価値を創出するとともに持続可能な社会の創造に貢献するということを明確化いたしました。

次に、サステナビリティ方針の考え方を受け、当社では5つのマテリアリティ(重要課題)を設定しました。

マテリアリティについては、まず、本業をいかして取り組

むことが出来る課題であるか、また、当社が取り組む意義があり、成果を上げることが出来る環境・社会課題であるか、という視点から、「低炭素社会への貢献」「サプライチェーン全体のマネジメント」「地域社会との共生」「ダイバーシティの推進」「ワーク・ライフ・バランスの実現」の5つを設定しました。同時に、取り組み策を明確にするため、各マテリアリティの2030年、2050年の目標を設定しました。

その中でJFRグループは、特に「低炭素社会への貢献」を最重要課題に位置づけました。先に述べました通り、私たちは環境問題をシビアに捉えて向き合っていないと大変なことになるという強い危機感を持っています。そして今、環境や社会の課題に対してしっかり取り組んでいくことがこれからの企業に強く求められており、地球温暖化への対応は社会の公器である企業にとって決して看過できない状況となっています。当社グループは気候変動への世界的な問題意識の高まりを最重要課題と認識して、全社一丸で取り組むことはもちろんのこと、全てのステークホルダーとともに問題解決をしていくことで低炭素社会の実現に貢献していきたいと考えています。

当社グループは、以上の取り組みを推進するために、2019年「サステナビリティ委員会」を設置しました。「サ



ステナビリティ委員会」は、代表執行役社長を委員長とし、当社の5名の事業統括部長、グループ事業会社社長11名の計16名の委員で構成されています。JFRグループ全体で横断的にサステナビリティ経営を推進していくことを目指して、5つのマテリアリティに関する各社の推進状況の共有や課題発生の迅速な対応を行っていきます。また「サステナビリティ委員会」の活動内容は都度、取締役会に報告を行っており、取締役会がESGの課題と取り組みを共有化できるようになっています。

トップ
コミットメントサステナビリティ
推進体制JFRの
マテリアリティ低炭素社会への
貢献サプライチェーン
全体のマネジメント地域社会との
共生ダイバーシティ
の推進ワーク・ライフ・
バランスの実現事業会社の
ESGの取り組み社外取締役
メッセージ

ガバナンス

データ集

→ **トップメッセージ** 外部有識者メッセージ ESG担当役員メッセージ JFRの事業戦略 JFRの理念体系 サステナビリティに関する方針

2050年への覚悟

私たちは、サステナビリティ経営への取り組みの「土台作り」をこの1年半進めてきました。この取り組みは今後とも継続して進めていかなければならないと考えています。

一方、私たちは、いつまでも今の取り組みの延長線上に留まっていれば、拡大する持続可能な社会の実現に向けた取り組みに対するニーズには応え続けることはできません。私たちは、サステナビリティ経営の今後の進化の方

向性を、世の中を善くする、正しい事を行うという志を具現化することであり、新たなマーケットを創り出すことであると考えています。そしてこれこそが私たちが考えるCSV戦略です。

今後は、社会課題である5つのマテリアリティを解決することを通して経済価値の拡大も同時に実現する方向性に進んでいきます。JFRグループはCSVの考え方を軸にJFRらしい取り組みを実現していきたいと考えています。

このJFRらしさを具現化した取り組みのひとつが大丸心斎橋店です。私たちは、CSVの考え方を具現化した店舗を「CSVストア」と位置づけています。これは、百貨店・パルコのビジネスモデルと持続可能性の考え方を掛け合わせた、持続的成長に向けた戦略的な店舗を指します。そして、サステナビリティ方針で掲げた「人びとと共に、地域と共に、環境と共に」を具現化するための中核となる場所であり、社会課題の解決と経済価値の実現を両立させ解決しながら持続的成長を実現する場でもあります。

大丸心斎橋店は低炭素社会に貢献し、サステナビリティ方針を推進していく当社グループの象徴として、再生可能エネルギー100%への転換をはかり、新時代の店舗に生まれ変わりました。今後、新しい百貨店ビジネスモデルとサステナビリティの考え方を掛け合わせ

た店舗(CSVストア)を他の店舗へも展開していくことに取り組んでいきます。

また、新生渋谷パルコでも、新しい都心型ショッピングセンターとしての店づくりに加えて、サステナビリティ方針の考え方を取り入れ環境に優しい店づくりを進めています。具体的には、魅力的な屋外空間の演出や、コージェネレーションシステムを中心とした効率的エネルギーシステムの採用、デジタルコミュニケーションによるエネルギーの効率的利用の促進などの取り組みを進めて、次世代商業空間とエネルギーの運転効率を高めた省CO₂型の複合ビルの両立を目指しています。

サステナビリティ経営への取り組みは長い道のりです。JFRグループも目標を2050年に置いています。当然ですが私の代だけではなく、今後、JFRが存続し続ける限り永続的に取り組んでいかなければならない取り組みです。課題もずっと継続して取り組むべきもの、新たに取り組むべきものなど様々なものがあるでしょう。そのためには社是を中核に置きながら時代の変化を先取りし、対応していかなければなりません。これは取り組みを始めた私の覚悟であり、同時に企業としての覚悟でもあります。

今後何のために事業を行うのか、取り組むべき課題は何なのか、持続可能な社会の実現に向けて自分たちはどのような役割を果たしていくのかを常に問い続けていきます。そして、JFRグループはESGへの取り組みを愚直に推し進めることで持続可能な企業の成長を実現し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

2019年12月

山本良一

